

今後の小高小学校・小高中学校のあり方について

協議事項2 再編校の位置及び通学区域

事務局案 義務教育学校の位置については「**現小高小学校の位置**」とします。
また、通学区域については「**現小高小学校及び現小高中学校の通学区域**」とします。

理由

義務教育学校の位置は、施設が建設されてからの築年数が比較的新しいこと（小高中学校と比較すると20年近く新しい）や再編時の児童生徒見込数における校舎のキャパシティ（教室数等）の状況、また、グラウンドの人工芝生化やバリアフリーなどの施設の状況などを考慮すると「現小高小学校の位置」が望ましいとし、小高小学校の校舎を引継ぐものとします。

未就学児を含む保護者意識調査では、施設一体型の義務教育学校設立に「賛成」「どちらかという賛成」と回答した方に再編校の位置について調査をしたところ、在籍児童保護者から7割以上（76.9%）、在籍生徒保護者から6割、未就学児保護者から6割以上（66.7%）、全体として7割以上（71.4%）の方より施設を一体化する際の校舎として「小高小学校」との回答がありました。

また、意識調査の結果で再編校の位置について「その他」と回答した保護者のうち、4件がグラウンドや校舎以外の施設次第で小高小学校となっているため、それを含めると小高小学校が全体として77.1%となります。

なお、義務教育学校の開設にあたっては、増築を行わず、現小高小学校の校舎を最大限活用し、美術室・家庭科室などの諸室を前期課程（小学校）・後期課程（中学校）で共用するための改修等必要な整備を行います。

加えて、校舎以外に必要とされる施設についても具体的なニーズを踏まえた検討を進めます。その際、小高中学校の施設活用も含め、多様な施設活用の可能性を視野に入れながら具体的に検討していきます。

・小高小学校と小高中学校の通学区域が同じであることから、「現小高小学校と現小高中学校の通学区域」とするのが望ましい。

○小高小学校舎等の施設の現状

小高小学校の校舎は平成4年から5年にかけて建設されました。築30年以上経過していますが、平成29年度に小高小学校を再開する際に大規模改造工事を実施しています。

鉄筋コンクリート造の校舎の目標耐用年数は80年となっていることから、施設の長寿命化を図るため、将来的に長寿命化工事*1が必要になります。

一方、グラウンドの人工芝生化や施設のバリアフリー化も進められています。

また、防災の観点からは、津波浸水区域外に位置するものの、大雨の浸水想定区域の0～3.0m未満の区域に入っています。しかし、大雨等についてはある程度事前に予測が可能であるため高台への避難等の対応が可能であること、また、急な大雨については、垂直避難が可能であり、安全上の問題は低いと判断します。

*1 老朽化した建物について、物理的な不具合を直し建物の耐用年数を高めることに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準にまで引き上げる改修工事。

(文部科学省 学校施設の長寿命化改修の手引きより:平成26年度策定)

○小高中学校舎等の施設の現状

小高中学校の校舎は昭和47年から50年にかけて建設されました。築50年以上経過していますが、平成18年度から20年度にかけて大規模改造工事を実施しています。鉄筋コンクリート造の校舎の目標耐用年数は80年となっているため、近々、長寿命化を図るため、長寿命化工事が必要になります。

施設については、バリアフリー化がされています。

また、防災の観点からは、津波浸水及び大雨の浸水想定区域外に位置しており、体育館については避難所として指定されており、今後、エアコンの設置も予定しています。

《小高小学校・小高中学校の主要施設概要》

【構造について】RC：鉄筋コンクリート造 S：鉄骨造 FRP：繊維強化プラスチック

学校名	敷地面積 (㎡)	建物概要 (R7.5.1現在)								
		建物名	構造	階数	面積	建築年月			築年数	耐震性
小高小	21,983	北校舎	RC	3	3,012	H	4	5	33	○
		南校舎	RC	3	2,248	H	5	3	32	○
		体育館	S	2	1,373	H	6	3	31	○
		プール	FRP	-	25m×17m 6コース	H	6	3	31	-
小高中	37,077	南校舎西	RC	3	1,154	S	47	9	52	○
		南校舎東	RC	3	1,682	S	49	12	50	○
		北校舎	RC	3	2,539	S	50	1	50	○
		体育館	S、RC	1	1,350	S	51	3	49	○
		プール	RC	-	50m×17.5m 7コース	S	51	11	48	-